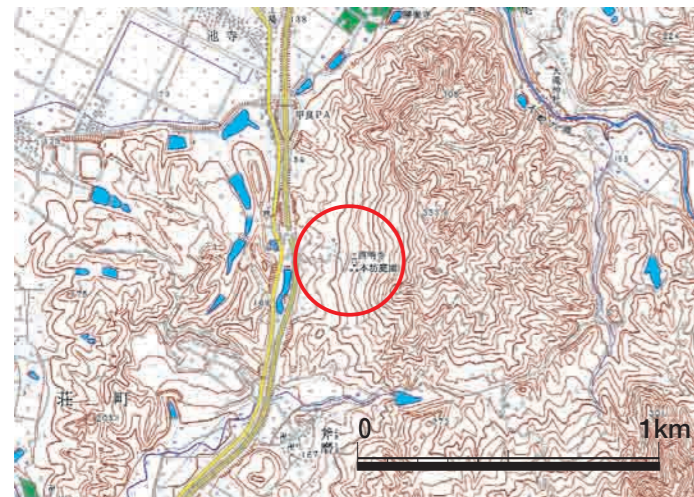
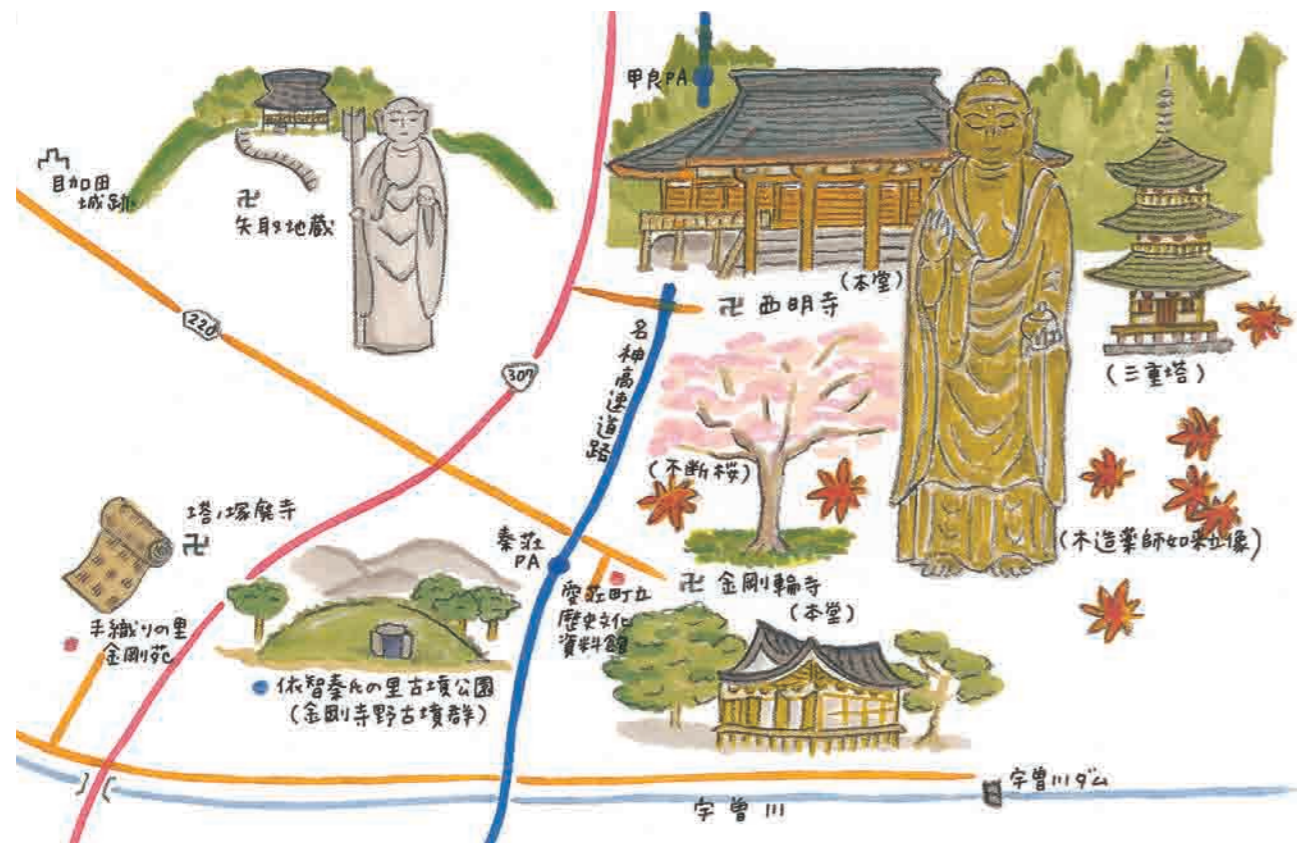


周辺のみどころ

西明寺に百済寺（東近江市百済寺町）、金剛輪寺（愛荘町松尾寺）を加えた天台三か寺は、湖東三山の名で知られている。百済寺は聖徳太子によって開かれたと伝えられ、寺名から渡来人との関係もうかがわせる。江戸時代に再建された本堂（重要文化財）には秘仏本尊の十一面観音立像が安置される。金剛輪寺は聖武天皇の勅願によって行基が開いたと伝えられる。南北朝時代に建立された本堂（国宝）には、秘仏本尊の聖観音像をはじめ、平安時代から鎌倉時代にかけて造られた仏像群が安置されている。



国宝金剛輪寺本堂



【アクセス】

- JR琵琶湖線河瀬駅からバスで金屋下車徒歩20分。
- 名神高速道路に平行する国道307号沿いから東へ入る。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献/関連施設)

- 岡部伊都子ほか『古寺巡礼近江6 湖東三山』淡文社
- 西川杏太郎編日本の美術第224号『近江の仏像』至文堂
- 伊東史朗 日本の美術第242号『薬師如来像』至文堂

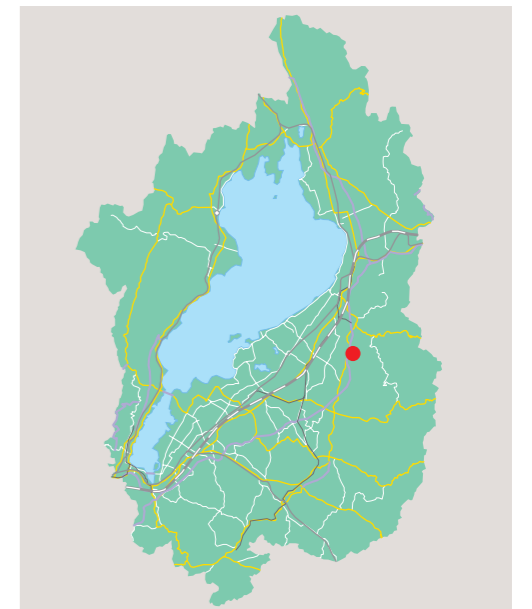
西明寺

犬上郡甲良町池寺



国宝西明寺本堂

寺伝によると、西明寺は三修上人の開基とされる。平安時代の初め、三修が琵琶湖のほとりを歩いていると紫雲がたなびき、光を放つ池があったので祈ったところ、薬師如来が浮かび上がり、傍らの立木に像を刻んだことに始まるという。さらに、西明寺の信仰の背景には農耕用の水、そしてそれを提供する山や木に対する感謝の念が深く関わっていると思われる。地勢的に、西明寺山麓の土地には、農地を十分に潤すほどの大きな川がなく、西明寺の山林から得られる水が唯一の頼りであった。実際、日照りになると八大竜王の旗を持って山で雨乞いを願う儀式が戦後の一時期まで行われていたという。西明寺の山号が「龍応山」であるのも、こうした水への信仰が深く関わっていることを示唆している。





壁画が描かれた国宝西明寺三重塔内部

西明寺

所在地 犬上郡甲良町池寺

西明寺本堂・三重塔・二天門

名神高速道路と立体交差する非常に珍しい参道を登りきり、二天門（重要文化財）を潜ると、境内最奥の山中としては比較的広い、中央に本堂（国宝）、その南側に三重塔（国宝）が建つ平坦地に着く。

本堂は、鎌倉時代前期に桁行五間、梁間五間の堂が建立され、その後二度にわたる拡張工事によって七間堂になり、さらに室町時代に正面に三間の向拝が付けられた建物で、ゆるい勾配の檜皮葺の屋根、正面全面の部戸や柱上組物を飾る鬘股など、すばらしい構成美を持った大建築である。

三重塔は、様式手法からみて鎌倉時代後期の建立と推定される。純和様の塔で、各部ともよく整い全体の調和が優れて、実に美しい第一級の建築である。初重中央に大日如来をまつり、四天柱には金剛界の三十二菩薩、四方の壁には法華経二十八品の要文と解説画が、また扉の八天像など絵師が丹精を込めた仏画

がよく残っており、長押・幣軸・天井等隅々まで極彩文様で装飾されている。

二天門は、組物に応永14年（1407）の墨書がある三間一戸の入母屋造八脚門で、全体は和様であるが柱下の礎盤や頭貫先に線形つきの木鼻をつけるなど僅かに禅宗様を加えている。

西明寺の本尊と堂内の諸仏

本堂内の内陣須弥壇上の厨子には本尊で秘仏の薬師如来立像（重要文化財）が安置され、厨子の左右には脇侍の日光・月光菩薩像や薬師如来の眷属である十二神将像（滋賀県指定有形文化財）、二天像（重要文化財）などが並ぶ。薬師如来像は像高161.4cmの立像で、左手に薬壺をとる。両手、両足先を除く全身をヒノキの一木で彫り出し、頭部、体部を前後に二つに割って、内剝りをほどこした後、再び接合する一木割矧造で制作される。厚みがあり、堂々とした姿は、平安時代初期の作



国宝西明寺三重塔



名勝西明寺本坊庭園

風に通じるが、螺髪を細かく刻み、目鼻立ちや衣文の表現がよく整理されていることから、鎌倉時代初期の制作と考えられる。由緒のある古い像を模刻したとの指摘もある。

十二神将像はそれぞれが頭頂に十二支をいただき、さまざまな武器を手にとって本尊を守護する。個性の強い怒りの表情と特徴のある姿態が的確にとらえられている。このような写実的で力強い作風は鎌倉時代特有の表現



重要文化財薬師如来立像

といえる。同時期の十二神将像の作例は全国的に見ても稀で、保存状況もよく、貴重な存在といえる。その他、本堂の後陣には「三国伝来の霊像」、「生身の釈迦」として古来より厚い信仰を集めた京都・清凉寺の釈迦如来像（国宝）を模刻した釈迦如来立像（重要文化財）や不動明王像二童子像（重要文化財）が安置される。